

ヤマゼリ(山芹)の観賞

2011年9月22日

澤田 繁 著

私には、春咲く花より秋咲く花のほうが名前のわからないものが多い、秋咲く花のなかでもレースみたいに白い小さな花が数多く咲いて鮮やかできれいな草が気になっていた、女房に聞いてみたら、しばらくして、山と溪谷社の「秋の野草」をもってきてこれでしょうと言って渡されました、それが「ヤマゼリ」でした。



<ヤマゼリ>



< 複散形花序 >

【セリ科・ヤマゼリ属の多年草】

図鑑によれば、山に生え、セリに似ているのでこの名がある。秋に山歩きをすると、山道のそばなどに一面に咲いている。高さは70cmほどになり、茎の上部で枝分かれし、細かい花をびっしりと咲かせる。葉の質は軟らかく縁には粗い鋸歯がある。クローズアップすると繊細な美しさがある。手にとってじっくり眺めたり、ルーペで観察すると、今まで同じに見えていた花の形が微妙に違うことに気がつく図鑑に記載。

花ことば、せいれん潔白・純心。

少したってから、もっと詳しく見てみようと思い、花ビラの落ちた花を取ってきました。

右の写真でもわかるように、花ビラの下に既に種が見えます。この枝分れした部分をひとふさと呼んでみよう、このひとふさの枝の数は根に近いほうが枝の数が少なく上にいくほど数が多くなっていました。

取って来たのは上の枝のおおそうなひとふさであり根気よく数えて見ることにしました。

その結果枝の数は24個でした。

更に24個の枝につける花の数も調べてみました。19個・19個・19個・19個・7個・13個・11個・・・途中で放棄。

